

econ. 2000

北海学園大学経済学部報. エコン/No.1

自由な空気の中で、 なにかが追求できる。

現役学生が語る「僕たち・私たちの^{いま}現在、そして、^{みらい}将来」



経済学部で何が学べるのか

森下／まず、経済学部に入って、2年目3年目のみなさんに聞きたいのは、この学部でどんなことを学んだか、とくに、みんなにとって、いい授業とはどんなものなのか聞かせてください。

というのも、僕は1年生の何も知らない学生に、経済学部に入って経済学をきらいになってほしくない。やるぞ、という意気込みを持ってもらいたい。だから、みんなにとって経済や経営が面白いな、と思える瞬間とか、どういうふうなことで導いたら面白い勉強ができるのか、聞いてみたい。

友田／私の所属している牛丸ゼミでは、新聞を中心に自由にテーマを選んでいっ

て、それについて各自が発表しています。その時にはすこし突っ込まれた質問にも応えられるよう、深く調べてくることが求められています。今、私は、欧州の通貨統合とユーロについて、調べようと思っています。

牛丸／まず、ユーロについて調べることによって、ヨーロッパ経済についてもさらに調べると、もっと理解が深まる。

菊地／僕は、講義にとにかく出席することを心がけてきましたが、それが功を奏してか最近では、新聞の経済欄がそれなりにわかるようになってきました。経常利益とか、それなりにわかります。また、ゼミでは情報化と通信業について取り組んでいるのですが、テキストを与えられ、それを読むというより、班でテーマを決

めて調べる。実態があるからそれは面白いと思っています。

森下／調べるのは、図書館？

菊地／図書館です。この大学の図書館とか、中央図書館です。また、去年はビール業界について調べましたが、その後ビール工場の見学に行くなどしました。

森下／資料を探して、自分なりの結論を導き出していく面白さなのかな。

清江／この前経営管理論で、「2000年問題について自分の身近に起こること」というテーマが出されました。レポート自体は6000字で、パソコンを使って提出。インターネットを使ったり、本を買ってみたり、新聞で調べてみたり、こういう課題を出されると結構一生懸命やる。はじめに先生方から、興味を持てる



森下 宏美 教授

経済学部経済学科（経済学史担当）

テーマを出してもらえれば良いのかも…。

牛丸／そういう身近な題材から追い求めていって、最終的に、深い、アダム・スミスに至るような、そういう議論をすれば、かつ、それをもっと総合的に経済学部

の先生が取り組んでいけば、学びがいろいろあるのかな。

溝江／確かに、ゼミのために新聞を読むので、それまで読まなかったテレビ欄以外も読むようになりました。

菊地／ただ、授業は、もう少し学生にわかりやすく説明してほしい。

牛丸／ひとつ注文しておきたいのは、大学の授業は、授業に出席しているだけで4単位ではない。予習・復習の時間も含めて、4単位になる。だから、自由な時間は、バイトやサークルなどと併せて、こうした学習にも向けるべきじゃないかな。

森下／最近、この問題については経済学部でも入門的な講義を導入して、検討をはじめています。

亀井／でも、学生が勉強しなさ過ぎるのも問題ではないのでしょうか。お互いに問題があるけれども、学生の方も考えな



牛丸 元 教授

経済学部経営学科（国際経営論担当）

いと。

今、大学というのは、なんとなく目的もなく入ってきている学生が多く、とくに文系の社会科学系では理系と違ってそういう傾向が強いようです。マルクスのこれをやるとか、経営のこれをやるとか、意識をもった学生はいないとは言いませんけれども、少数だと思うのです。

牛丸／他大学の話だけど、いい授業をしている先生だと、授業の最後に拍手がおこる。一度やってみたいですよ（笑い）。

ポリシーをもつということ

牛丸／菊地君が経験した、学生が社会人を経験できるインターンシップでは、どうして通産局を希望したの？

菊地／去年のゼミで通産局のベンチャー・プラザという催しを見学して、それをきっかけに申し込んだら、選ばれました。地域計画についての会議にオブザーバーとして出席したり、自分の意見を発表したり。終わって感じたのは、自分の意見をしっかり持って、答えられることが社会人には必要だと痛感しました。

牛丸／外国の学生などは、意見をはっきり言う。これまでに外国の学生との交流はありませんか？

亀井／高校時代にそういう経験があるけれども、とくに、向こうの人たちは、書かせる訓練をしていました。日本のように結果をバツと教えないで、考えさせて、最後の結論までいかせて、それに合わせてディベートみたいなことをやる。こちらの学生は、考える力が弱いですね。

牛丸／そういう学習は、大学に入ってから、はじめて経験する。

森下／牛丸先生は、学生連れてオーストラリアに行ってるとか。

牛丸／いままでの経験だと、向こうに行った学生はかなり鍛えられて帰ってくる。人格が変わります。そして、戻ってくると、もっと勉強したい、と言います。

高校とは違う「自分の時間」

亀井／大学で高校時代と違うのは、生活が縛られなくなったことです。高校時代には朝の何時に登校するとか、小学校から高校まで。でも、大学に入ったら講義も出席を取ったり取らなかったり、まちなんで。ある意味では、自由すぎて、怠け癖が付き、大学生になってちょっと生活習慣が乱れもしましたが…。

牛丸／でもまあね、大学時代ぐらいしか生活習慣を見直す時期はないからね（笑い）。

亀井／最近、起きる時間は整えて、健康的になりました。

森下／アルバイトは、何かやっていないんですか？

亀井／家庭教師と、あと、単発で選挙の投票所のバイトなどもしました。バイトに力を入れている人はいますね。月10何万円とか稼いでいるような学生もいます。バイトが主体になって、単位だけが取れば良いという、そんな学生もいることはいます。

牛丸／お金を貯めて、海外旅行でも行くのかな。

亀井／そういう人もいます。また、資格をめざす人や、学校のほうや、授業のほうに主体をおいている人、それからサークル中心の人とか、僕の身近なところでは、だいたい、この4つのパターンの学生がいるのではないのでしょうか。

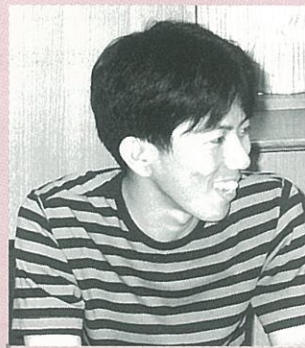
一生の友人との出会い

森下／僕らの高校・大学時代は、小グループで勝手に読書会をつくるとか、先生のところに行って話につきあってもらったとか、なかなか長続きしないけれども、その都度その都度友達同士で勉強を教えあったり、そのような事を仲間の中で結構やっていました。最近、そういうのが少なくてちょっとさびしいな、という気がします。

牛丸／うん、特に、そういうところでできた友人は長続きするよ。溝江さんはラクロス部で、マネージャーとかやってて、マネージャー同士が活動通じて仲よくなったとか…。

溝江／サークルでは、一生友達でいられるような関係ができました。毎日授業やサークルなどでの苦しいこととか楽しいことも、全部一緒に、悩みとか、友達同士で話し合っ

て。一緒に、いい友達ができます。特に、経済学部では、自分にあった時間をつくり、講義など自由にできる部分が多い。他の学部なんかでは、2年生で公務員試験のため退部した人もいたりしましたけれども、この学部では、そこまでの人はあまりいないようです。朝練、夕練とか、1日2回練習しているけれども、時間に追われて、時々講義をさぼっても、一つに打ち込めることで大学生の生きがいが見つけれ



亀井 健史

3年生 札幌南高校卒業



友田 寛子

2年生 北星学園女子高校卒業



溝江 涼子

2年生 藤女子高校卒業



菊地 健夫

3年生 札幌開成高校卒業

っている学生は、「ラクロス命」で、サークルに夢中で過ごしています（笑い）。
友田／私は、まだ2年生で何をやっているか、十分わかっていないのですが、先に紹介したとおり、新聞で読んだことを調べて、いろんなことを発表しています。

また、この大学では教育研究会に属していて、ディベートなどもやってます。テーマは、中学の入試制度が変わったこと。それ以外にも、華道を習って、たまに個展なども開いて頑張っています。一応今年看板も取れることになります。

亀井／大学では、何にも見つけられないより、何でもいから打ち込むものが見つけられれば良い。これから生きていくのにいい糧になります。見つけることが大事。これから入る高校生にも意識してほしい、と思います。

自由な時間の中から将来をつかむ

牛丸／将来については、みな、どう考えているのかな。

菊地／僕は、インターンシップで行った研修先をめざしたい。経済を勉強して、経済状況がわかるようになれば、公務員

としてやっていけるのではないかと。

森下／どういうところで、そう考えたの？
菊地／これまでで、いろいろ北海道の経済状況について考えることは、僕にあっていと感じています。この現状を打開するにはどうしたらいいか、といったことを考えることが好きだからです。

森下／亀井君は。

亀井／公務員というのでもいいと思うんですけども、在野で社会貢献できたらな、ということで、税理士とかそっちの方を考えています。自分なりに貢献できたらいいな、と思います。

友田／私は、一応税理士をめざしてるんですけど、簿記の講義を聞いて、さらに勉強するために、少しずつですけれども、ダブルスクールも考えています。

亀井／そうではないと厳しいですね。僕も同じ方面を考えているけれども、資格の勉強もしながら、経済学部での講義もからめ、経済経営の全体像ももうちょっと突っ込んで勉強してみたいですね。

溝江／私は、就職については、このままでいいの少し焦ってます。ラクロスもやめたくないし、来年になったら、コンピュータも習ったり、簿記とか、漢字検定とか、英検とかがんばってみようか

な、と。そのための計画を立てないと、と思っています。

牛丸／すべてを追求するより、何かは犠牲にしなけりゃだめ。たとえばバイトをやめるとか、犠牲をはらわないとだめじゃないかな。

僕が言えることは、大学生活は自由である、ということ。とくに、この経済学部は極めて自由で、いろんなことができるような感じがする。先生方も、あまり厳しくない、というか、あまり学生を縛らないで自由にさせてくれるし、おおらかに、自由に、北海道の大学の学部らしさがある。その利点を生かせば、大学生生活がエンジョイでき、将来にもつながる何かを得られるのでは。

亀井／自分から興味をもって、身近なことやちょっと興味のあることを、まずやってみよう。1週間でも何かしてみることで、見えてくるものがある。将来像とかを考えるのが大事で、ただ受験するだけでだらだら時間が過ぎてしまうのはよくない。常にあれしたいな、これしたいな、と勉強に限らずどんなことでも、何かやりたいことを見つけようとする、このことを意識していくことが大切。

きっかけは何でもいいから、このモラトリアムの期間に、大学生活で何かをみつけて、また、みつからなくても意識していく。大学は自由なので、自分から何か得ようとすれば、得られるのではないのでしょうか。

森下／北海学園大学はキャンパスは狭いけれども、利用できるものは教員も含めていろいろある。今後入学してくる人たちも含め、みなさんの未来のために、大いにこの学部を生かし尽くしてほしい。

対談を終えて

大学生活は様々な面で高校までの学校生活と異なります。一言で言えば、一人前の大人として扱われること、多くのことについて自分自身の判断が求められるということでしょう。自分は何をしたいのか、そしてそのために、今何をすべきなのか……。自分で自分の将来の道筋を考えなくてはなりません。今回の4人の学生も、今打ち込める何か、将来の方向性をすてにつかみかけていたり、未だそれを模索中であったりしているようです。しかし、そんな自己への問いかけの中で、多くの学生が4年間で大きく成長していきます。卒業時には、4人とも何かをつかみ、自信を持って人生の第二幕を開いていくことでしょう。（編者）



社会は
「経済エンジニア」を
もとめています。

経済学部長
木村 和範

例年、3月は多くの企業の決算期に当たります。その決算報告が6月に公表されました。それは、多くの企業経営が「青息吐息」の状態にあることを示しました。経営を圧迫しているのは、バブル期にかかえた不良資産です。この処理のために、多くの企業は、リストラや合理化を余儀なくされ、失業率もかつてないほどの高さになり、倒産も珍しいことではなくなりました。このように経済が低迷している現在だからこそ、一人でも多くの学生が経済学部で学んでほしいと思います。そして、経済活動が国民のためにおこなわれるためには、社会の仕組みがどうあるべきかについて考え、その仕組みを創造する「経済エンジニア」として21世紀を切り開いてほしいと願います。

経済学部の卒業生が文字どおり「経済エンジニア」として社会で活躍するために、大学では次の5つの知識を修得してほしいと考えます。第1は、新聞の経済面や経済記事の内容を、専門に経済を学ばなかった人たちに説明できるだけの、一般的な経済・経営知識です。第2は、「そのことだったら、30分でも1時間でも、時間の許す限り、詳しく説明できる」と言えるほどの、専門的な経済・経営知識です。第3に、経済や経営に関する専門的な知識だけでなく、哲学、思想、社会学、心理学などの、一見すると専門的知識からはかけ離れたと思われる知識です。第4は、外国語の知識です。「読む」「書く」「話す」「聞く」の全部ができればそれに越したことはありませんが、どれか一つでもマスターすることができれば、それは社会生活における可能性の幅を広げることになります。第5は、心身の健康を維持するための知識です。高齢化社会のなかにあつて、若い皆さんには、職業生活を終えてから、なお短くとも20年は、介助なしで生活してほしいと思います。そのために、大学では科学的な健康管理のための理論を実技とともに学んでほしいと願います。経済学部は以上5つの知識の修得に向けて、数次の改革を経たカリキュラムを用意しております。そして、充実した教授陣が熱意ある教育に意を尽くしております。

さて、経済学部は西暦2000年には、50周年を迎えます。この間、圧倒的多数の入学生は北海道出身者であり、卒業後の就職先も、多くの学生が北海道を選びました。そして、卒業生は、地域に根ざした着実な営為を重ねてきました。その活躍が地域社会の支持を受けて、さらに卒業生が地域社会から暖かく受け入れられてきました。今後とも、経済学部は有為な人材を地域社会に多数輩出して、その社会的使命に応えたいと念じております。

目的と歴史

経済学科

国が違えば文化や言語が異なるのが当たり前のように、流通する貨幣（お金）も違っているのが普通です。ところが、ヨーロッパのEU諸国では、この通貨をユーロという統一通貨にする試みに着手しました。経済活動の円滑化のためには、国境は邪魔な存在であり、国ごとに通貨が異なるのも経済発展の障害となると考えられたからです。このように、今、世界では、国境を越えた経済活動がますます盛んとなり、「人・もの・金」の交流が24時間絶え間なく展開されています。北海道もこの流れのなかで、次の時代の基礎を築かなければならない時期を迎えています。

こんな時代にあつて、経済学科に学ぶみなさんは、以前にもまして幅広い知識を踏まえながら、新しい発想と柔軟な思考力を養うことを要求されることになります。経済学科はカリキュラムにそのための豊富なメニューを用意しました。

経済学につながる社会科学はもちろんのこと、文学や歴史、さらには自然科学についても、必要と考えられる科目はできるだけ用意しました。すべてに精通する必要はもちろんありませんが、経済学以外の学問から学ぶという謙虚な姿勢が大事です。底の浅い薄っぺらな経済学は長続きしません。

英語をはじめとした語学にも一定の力をさいてください。外国の文化と歴史を理解することなく経済交流だけを深めることはできません。日本人は「エコノミック・アニマル」であるとか、日本の首相は貿易会社の「営業マン」であるというような外国人の評価は過去のものにしなければいけません。

経済学の専門は、みなさんの関心に応じて、いくつかのグループから選択できます。経済理論、経済史、国際経済、経済政策、情報処理や統計学などです。特に、少人数で行うゼミナールでの勉強はみなさんをその分野のエキスパートとする準備をするのに有効です。ゼミナールでは合宿やコンパ、ソフトボール

経済学部の歩み

1950.4 北海短期大学を創設し、経済科1部・2部開設
1952.4 北海学園大学（4年制）を創設し、経済学部1部経済学科を開設
1953.4 経済学部2部経済学科を開設
1966.4 経済学部1部経営学科、2部経営学科を開設

大会など学生相互と教員との交流の場でもあります。

4年間を通じて、所定の科目を勉強した経済学科の学生は、時代の要請と地域の期待に十分応えることのできる力を養っているはずで。現に、経済学科の卒業生は道内をはじめ全国で活躍しており、やがて合流してくるみなさんを待っています。

経営学科

本学経済学科は昭和25年、北海学園大学の前身である北海短期大学創設以来の伝統を誇り、北海道庁や札幌市役所をはじめとする地方自治体、道内の主要企業に多数の卒業生を送り出し、半世紀にわたって北海道経済・社会の発展に強く関わってきました。こうした貢献に一層寄与するために、昭和41年に、経営学科が開設されました。経営学科の開設は、北海道経済・社会に対して経済学科にはない貢献のあり方が考えられ、経済学科とは異なる方法で、社会に寄与する人材育成を目指したのです。

「経済学科と経営学科（あるいは経済学と経営学）は、どのように異なるのでしょうか。」これはみなさんのような受験生ばかりでなく、大人の人からも発せられる質問です。確かに、この2つの学問体系は密接に絡み合っていますし、それぞれの学問対象がオーバーラップしている（あるいはそのように見える）ことから、当然かもしれません。ちょっと無謀かもしれませんが、自動車産業を例に違いを考えてみましょう。今日、自動車産業は市場が成熟しており、以前のような爆発的な成長は考えられなくなっています。その中で、自動車産業に属する企業はそれぞれ競争し合い、ある企業は利益を得ることができているのに対して、ある企業は損失を出していることをご存じでしょう。経済学では自動車業界全体（自動車産業）を問題とするのに対して、経営学はそれぞれの企業の質や能力を対象としているのです。

では、経営学科で勉強するとどのような知識・能力を得ることができるのでしょうか。これに対する解答は経営学科のカリキュラムを見れば、わかります。経営学科は組織（主として企業）問題を中心にした経営学、市場問題を中心とした商学、組織内外の計数的問題を扱う会計学、組織・市場を取り巻く情報をコンピュータ処理する情報処理の各分野から成り、「組織を中心とした経営学教育」、「実践志向の経営学教育」、「グローバルな視点に立つ経営学教育」という教育方針のもとに、学生が社会に出てすぐに役に立つ知識・能力を身につけるプログラムを提供しています。どの企業でも基本的に利益を獲得することを目的としており、利益を獲得するために製品を製造・販売したり、あるいはまたサービスを提供したりするのです。その際、どんな製品が顧客にアピールするのかを分析し（商学で学ぶ）、有利な資金調達や製品価格の決定などを行い（会計学で学ぶ）、企業内外の情報を組織で有効に利用するためにシステム化し（情報処理で学ぶ）、これらをもとに企業の現状分析と将来の方向性を決定する（経営学で学ぶ）ことが常に企業に求められているのです。これら、企業で必要とされる知識・能力を実践的に提供しているのが経営学科です。この意味で、常に現実の企業問題が講義で展開されていますので、興味を持って授業に取り組むことができるでしょう。

企業に関する従来の考え方が大きく変化しつつある今、みなさんが専門的知識・能力に支えられた自由な発想を展開することが、企業ひいては社会に求められているのであり、みなさんの発想が経済・社会を活性化し、発展させていくことで。それだけに、みなさんに対する期待は大きいのです。

1970.4 大学院経済学研究科経済政策専攻修士課程を開設
1989.11 2部社会人特別入試実施
1995.4 大学院経済学研究科経済政策専攻博士（後期）課程を開設
1998.4 1998年度新生より新カリキュラム始動
1998.11 経営学科1部指定校推薦入試・経済学部2部公募推薦入試実施
1999.11 1部公募推薦入試制度実施
2000.4 大学院経営学研究科修士課程開設（予定）

※上の写真は昭和30年当時の1号館

21世紀探究計画

ゼミナール

犬塚正智ゼミ（経営管理論）

本ゼミでは、1年間を通して経営管理の研究を行っており、有能なビジネスマンの育成と起業家の養成をめざしています。ゼミでは、2年生から主体的に現実的な経営管理の技法や思考法を体得できるよう様々な取り組みを実施しています。6月には、札幌のベンチャー企業の経営者を招いての講演会並びに質問会を実施しました。経営者の考え方や企業家精神を学ぶことができたと思います。また、町おこしの一環として、本年度より7月に厚田・望来浜で開催される「砂祭り」に参加しました。きっかけは、NPO（Non-profit Organization）の運営方法と社会的役割の増大に本ゼミでも積極的に関わってゆこうという提案があったからです。冬の「雪祭り」、夏の「砂祭り」といわれるように学生の活力を地域社会に生かしていきたいと思ひます。

また、夏には北海道の景勝の地を選んで恒例の夏合宿を実施しています。学内では無理なフィールドワークや研究活動を実施するとともに、学生個々人が貴重な思い出となるようなそんな合宿をめざしています。最後は纏まった研究成果をゼミ論というかたちで提出しています。大学4年間も意外と短く感じられるくらい、学生生活は充実しています。まず、自分の将来の目標を決めて、意欲を持って学業に生活に取り組んでいただきたいと思ひます。

美馬孝人ゼミ（社会政策）

10年ほど前、高齢化社会になると現役で働く者の数がなくなり、若者2.5人で1人の高齢者の生活を支えなければならなくなる、などと宣伝されました。政府はこの高齢化社会危機論を前面に掲げて、高齢者の年金額の切下げや給付年齢の引上げ、また20歳から国民全員の国民年金加入を強行したのですが、今また2000年4月実施の介護保険料を月額いくらに設定するかを検討中です。

労働年齢を過ぎた人々の生活をいかにして保障してゆくかは、現在の日本社会の最大の問題の1つとなっていますが、私達のゼミでは、高齢化社会にそなえる諸政策を考える前提として、まず、高齢化社会とは何であり、現在の経済とどう関係しており、またどのような問題が生じてきているのか、を正確に理解するよう努めています。

日頃漠然と感じていることの社会経済的背景や原因を理論的に把握し、それを自分の言葉で、あるいは自分の文章で表現できるようになることを目標としているので、現在、山井和則氏の体験ルポ『日本の高齢者福祉』『世界の高齢者福祉』（岩波新書）、そして総務庁の『高齢社会白書』のテキストを用いて議論を深めるようにしています。



大月博司ゼミ（経営学）

本ゼミでは、情報革新やグローバル化の急速な進展、それに伴う規制緩和という環境の変化を踏まえ、現代社会において重要な役割を果たしている経営組織の基本的な行動メカニズムについて、理論的研究と実証的研究を合わせて行っています。そして、こうした研究を通じて、実社会で役立つ考え方を学ぶとともに、コミュニケーション能力、情報処理能力／解釈能力などの向上が図られます。ゼミ生は、1年目に組織の人材管理といったミクロ組織論を、2年目に競争戦略といったマクロ組織論を中心に、2ヶ年継続して共同研究を進めます。ちなみに、99年度においては、競争優位戦略や今日の企業システムのあり方を共同研究し、特に2年目学生は、各自設定したテーマによりゼミ論の作成をしています。例えば、「環境問題と経営」「航空会社の戦略」といった具合です。

本ゼミで重視するのは、いろいろな観点から現象を見ること、多様な考え方を受け入れること、基礎学力の向上、自主性の尊重であり、ユニークな発想を創出することが高い評価を受けることになっています。また本ゼミは、勉強をすることが第一に優先されますが、時には自由闊達なコンパや合宿が適時行われて、生涯の友人を得る場ともなっています。



山田定市ゼミ（農業経済学）

私たちのゼミナールは農業経済学が中心ですが、最近、食べ物と農業に対する社会的関心が高まるなかで、多くの学生が参加し、学生の自主的な学習意欲を尊重して、楽しい雰囲気です。

今年は、「農」と「食」を二つの柱にして、テキストや文献を選んでいきます。ゼミの時間だけでなく、日ごろ交流のある農家を訪問調査したり、農家と中小企業家が一緒になって催す「田植え交流会」や「収穫祭」に参加したり、その内容は多彩です。今年の秋には、農場とレストランを併せて経営している異色の農家をみんなで訪問する予定です。農村で行う学習とレクリエーションを兼ねた合宿ゼミも企画したいと考えています。

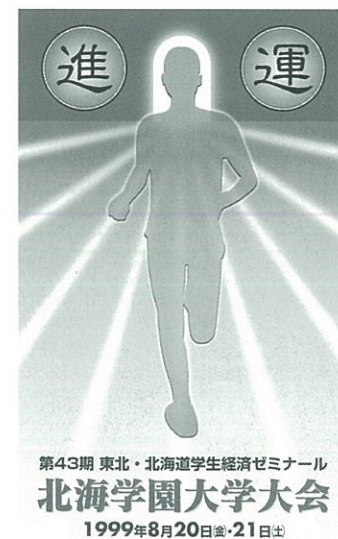
毎年、ゼミ対抗のソフトボール大会が開かれますが、今年はわがゼミが準優勝を果たし、意気が大いにあがっているところです。

ゼミは、もっとも大学らしい学習と仲間づくりの場ですが、さらに、ゼミ生の大部分は2年継続で履修してゼミ論文を書いて卒業します。卒業生がゼミ活動が懐かしいといつて訪ねてくるのはうれしいかぎりです。

柘植尚則ゼミ（社会思想史）

たとえば、「幸福」は自分で努力して得るもの、と考えられています。しかしそれは一つの考えにすぎません。幸せとはもともと「仕合せ」つまり「めぐりあわせ」であって、自分の力の及ばないもの、いわば運命でした。だとすれば、幸福が人生の目的である、と言っても、昔の人にはわかってもらえないでしょう。反対に、私たちも、一本の藁をつかんだことがきっかけで長者になるという、あの「わらしべ長者」（『今昔物語集』）の話を本当には理解することができません。中世の人々はその物語を、自分にも起こるかもしれないという思いで聞いていたにちがいありません。では、どうしてこんなに変わってしまったのでしょうか。

このゼミでは、学生の皆さんに、自分にとって大切な言葉、関心をもっている言葉を選んでもらい、その意味の変遷について研究し、成果を発表してもらっています（こうした研究は「概念史」や「概念史」と呼ばれています）。そのなかで、また他の学生との対話を通じて、自分の考えを深めてもらうことがゼミの目標です。そこで得られたものは、すぐには役立たないでしょうが、長い目で見れば大きな力を与えてくれるはずです。



ゼミ一覧

■経済学演習

池田 均(経済地理学)…資本主義の発達と「地域」
大沼盛男(経済政策)…国際化時代の経済政策～自然・地域・民族を考える～
奥田 仁(北海道経済論)…経済理論と地域経済
海保幸世(国際経済論)…世界経済の基本的構成
河西 勝(経済学原理)…法人企業の組織・文化・制度の時代的、国際的比較
川瀬雄也(財政学)…現代の日本の財政問題について
木村和範(経済統計学)…インターネットによる日本経済ウォッチング
小坂直人(産業総論)…日本社会と日本の会社
小田 清(開発政策)…日本経済の発展を環境保全と新しいライフスタイルの確立から考える
小林真之(貨幣金融論)…不良債権問題と「ビッグ・バン」について
千葉頼夫(国民所得論)…理論経済学の展開～ゲーム理論的経済分析～
長岡新吉(日本経済史)…「昭和」という時代の経済の歴史を学ぶ
西川博史(日本経済論)…戦後日本経済とアジア諸国との相互関係
美馬孝人(社会政策)…高齢化社会にむけて私たちのとるべき態度
森下宏美(経済学史)…経済の実態や経済学に関する基礎知識の獲得と経済学史入門
山田定市(農業経済学)…農業と食料問題に関する経済学的解明
伊藤淑子(社会保障論)…社会保障制度を通じて現代日本を理解する
笠嶋修次(現代経済理論)…中級レヴェルのミクロ経済理論の原理と手法をマスターする

■経営学演習

青野正道(銀行論)…日本の金融システム
秋葉国利(簿記原理)…簿記問題の解法演習
伊藤友章(マーケティング)…マーケティング戦略の基礎的研究
犬塚正智(経営管理論)…現代企業の経営戦略
今村 聡(会計学)…企業会計に関する基礎理論の把握
石井 耕(企業行動論)…現代日本大企業論
牛丸 元(国際経営論)…日本経済と企業行動
内田昌利(管理会計論)…企業の管理会計システムと人間行動
大月博司(経営学)…日本の企業社会の将来像
大場四千男(経営史)…北海道と東アジアの比較研究
岡田行正(経営労務論)…日本企業と日本の経営そして経営労務に関する考察
春日 賢(経営学史)…企業社会とバックス・ジャボニカ
川端俊一郎(商学総論)…環境マーケティング
後藤啓一(産業心理学)…環境適応の行動科学的研究(1)
杉本英二(経営統計学)…ネットワーク・コンピューティング時代の情報システム
高木裕之(財務諸表論)…企業と会計情報
福永 厚(情報処理論)…コンピュータによる情報処理
山田誠治(中小企業論)…現代経済と企業～その多様性と国際比較～

■両学科共通

高倉嗣昌(社会学)…日本近現代史とアジア
細見真也(国際事情)…「豊かな」発展途上国と「貧しい」日本
水野邦彦(哲学)…韓国の社会・文化・思想
柘植尚則(社会思想史)…近代とは何であったのか

※テーマおよび担当者は平成11年度の2年生を対象にして開講されたものです。

「知ってるつもり」を抜けたそう 講義

社会保障論／伊藤淑子



経済学部には、経済学の諸理論の他に、世界、日本、北海道の諸政策について学ぶ科目が多くおこなわれています。社会保障論もその1つで、日本の高齢者や障害者の福祉、年金、医療などの政策について、総合的に学ぶ科目となっています。これらのことは今、一括して「社会福祉」と呼ばれていることが多いので、「日本の社会福祉政策を知り考える科目」といった方がわかりやすいかもしれません。社会保障は、決して新しい政策概念ではないのですが、つい最近まであまり注目されることはありませんでした。「ふつう」に生きていれば、一生縁がないものと考えている人は、今でも少なくありません。それでも最近の少子・高齢化や、新聞やテレビでしきりにいわれている介護保険の導入などから、少しずつ人々の関心も高まってきたようです。

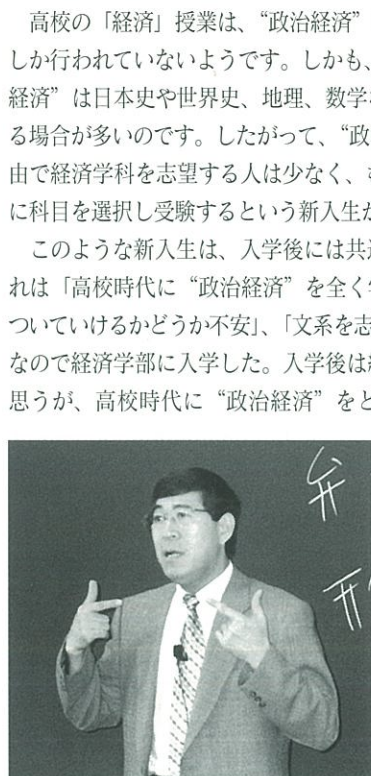
社会保障とは何かということについてはいろいろな説明がありますが、私は「人と人の助け合いのあり方」について考えることだと理解しています。それぞれの社会は、助け合いのルールを決めています。そのルールは、国によって大きく異なっています。助けを求めることは恥ずかしいと考える人が多い国もある一方、誰しも助けを必要とすることはあるのだから、安心して求められる方がよいと考える人が多い国もあります。どんな時に誰が助け、どんな時に誰が助けられるのか、そのルールを子細に見ていくと、その国の人々が、人間や社会をどのように見ているのかが、浮かび上がってくるのです。

社会保障について考えることを通して、今私たちが生きている日本という国について、そこで暮らしている自分たちについて、もう一度別の側面から眺めてみる、そんな機会が提供できればと願っています。

学生よりひとこと

- 高齢者の介護問題や障害者・児童に対する社会保障制度について、ビデオ等を交えた実感しやすい講義です。「私の老後はどうなるの?」と興味をもって学ぶことができます。
- 高齢化、少子化問題を取り上げる中、きれい事ではない現状に直面して、これから自分に何ができるのだろうか? と考えずにはいられなくなる魅力があります。
- 社会保障論は、日々の生活の中で出会う問題について具体的に学べるため、とても勉強になります。

経済学概論／小田 清



高校の「経済」授業は、「政治経済」を中心に、ごく限られた時間でしか行われていないようです。しかも、文系の受験科目として「政治経済」は日本史や世界史、地理、数学などと同じ選択科目に入っている場合が多いのです。したがって、「政治経済」を学んだからという理由で経済学科を志望する人は少なく、むしろ近年では、合格を最優先に科目を選択し受験するという新入生が多くなってきているようです。このような新入生は、入学後には共通する心配を抱えます。それは「高校時代に「政治経済」を全く学んだことがないので、授業についていけるかどうか不安」、「文系を志望していたが、就職も良さそうなので経済学部に入学した。入学後は経済学を好きにならなければと思うが、高校時代に「政治経済」をとっていないので人一倍心配」、「「政治経済」を学んできたので自信を持っていた。大学の経済学は高校のレベルより少し高いぐらいに思っていたが、実際に授業を受けてみると、中身の濃さと細かさ、開講科目の多さに圧倒された。講義ノートの取り方など高校時代とは大違いで大変」などです。

「経済学概論」という講義科目は、「経済」を学んだことのあるなしに関係なく、このような新入生の心配を少しでも取り除く目的で開かれています。すなわち、わかり易い「経済の話」を通して、講義の聞き方、ポイントを押さえてのノートの取り方、論文の書き方、他の講義科目との関連などを学ぶということです。いうなれば、新1年生の皆さんが「高校の授業」から「大学の講義」に意識転換してもらうための「経済学入門」です。

皆さんは「経済」の勉強は「政治経済」を学んだ人が有利だと思っているかもしれませんが、必ずしもそうではないのです。経済の歴史は世界史や日本史、地理などと密接に関連していますし、景気予測では数学的知識が必要です。経済と地球環境の問題では自然科学的な素養が大いに役立ちます。「経済」の勉強は、このように多くの分野の協力がなければ進展しないのです。自分の得意な「科目」を生かしながら、様々な「経済現象」を分析することはそれほど難しくありません。そのために沢山の関連科目が準備されているのです。「経済学概論」はそのためのスタートラインの位置にあるといえます。

学生よりひとこと

- もっと数学的な要素を含んだやっかいな学問だと思っていましたが、意外と歴史的なものを含んでおり、経済学を勉強したら人間の作った世界の仕組みが一番良くよくわかるかもしれないと思いました。
- 経済学部を選んだのは就職に強いかと、ちょっと甘く考えたからですが、想像以上に学ぶことがあり、経済についてもっともっと知りたくなりました。
- 大学の経済学とは高校の「政治経済」のレベルを少し上げただけのものかと思っていましたが、ものすごく奥深い内容なので驚きました。

体育実技／田中昭憲



みなさんに少し考えてもらいたいことがあります。今から60年後の自分を想像してみてください。80歳を目前にしたあなたは、どんな趣味を持っていますか。生活を支えるために仕事を続けているかもしれません。旅行に行けるだけの体力はありますか。そして何よりもトイレに一人で行けるでしょうか。現在の高齢者が過ごしてきた生活様式と、今の生活様式とは大きく異なっています。現代生活は交通の発達、家事・労働の電化や機械化が進み、身体や心をむしばんでいます。このような生活環境では、積極的に身体を動かし、心をつなぐ機会が必要なのです。高齢になっても、自力で生活できる身体と知恵を有していきたいと思います。こうした背景から、ぜひ大学で体育を学び、スポーツの楽しさを充分享受し、自分の健康を自分で守る方法を発見してもらいたいと願っています。

そこで、本学の体育実技では、

- 1) 活動的に毎日過ごすことのできるライフスタイルを形成しよう。
- 2) 健康と体力を増進・向上させる理論と実践方法を学ぼう。
- 3) 文化としてのスポーツの価値を認識し、生涯を通じてスポーツ活動を実践できる能力を身につけよう。

の3点を目標とし、これらの達成を目指しています。

開講科目は、フィットネス系種目(フィットネス、エアロビクスダンス、ウエイトトレーニング、ウォーキング&ジョギング、スポーツトレーニング)、スポーツ系種目(バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、ハンドボール、レクリエーションスポーツ、インディアカ*、ミニテニス等、野球、サッカー、テニス、ソフトボール、柔道、空手道、フットサル)と多様で、学生による選択性となっています。

また、体育の授業では、教員や学生同士のコミュニケーションづくりも大切にしています。体育の授業で、新しい仲間もできます。北海学園大学で、「大学の体育」を学びませんか。



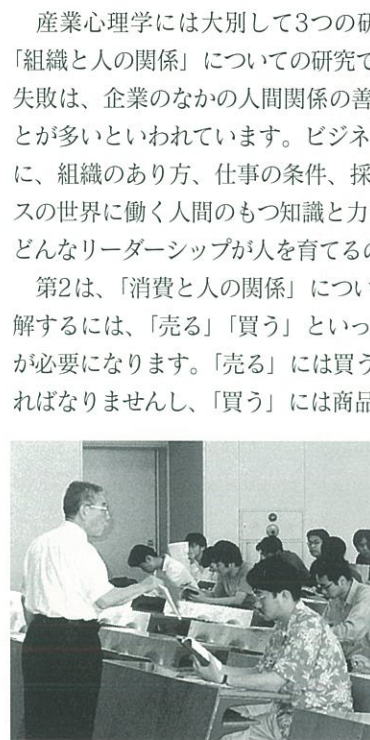
▲インディアカ

*インディアカは、羽のついたボール(インディアカ)を、6人制のバレーボールのルールに準じて、素手で打ち合うゲームです。軽量なので片手で簡単に打て、突き指の心配がありません。ボールのスピードも比較的遅いので、ラリーが続きやすく、適度な運動量が得られます。コートはバドミントンコートと同じで、ネットの高さもレベルに応じて変更しています。

学生よりひとこと

- ほとんどが初めてやる種目なのでとても楽しいです。とくにインディアカは熱中して我を忘れるほど面白いです。
- 主にインディアカ、ミニテニスを中心に普段やらないスポーツをしています。友達もすぐにできると思います。
- フィットネスの授業は、自分の現在の体力を科学的な見方で強くしていき、シェイプアップできるのがいい。

産業心理学／後藤啓一



産業心理学には大別して3つの研究分野があります。第1は、「組織と人の関係」についての研究です。ビジネスの世界の成功・失敗は、企業のなかの人間関係の善し悪しによって左右されることが多いといわれています。ビジネスマン社会の人間関係を中心に、組織のあり方、仕事の条件、採用・人事・教育など、ビジネスの世界に働く人間のもつ知識と力をどのように活かしていくか、どんなリーダーシップが人を育てるのかを研究していく分野です。

第2は、「消費と人の関係」についてです。消費という行動を理解するには、「売る」「買う」といった行動の心理を研究することが必要になります。「売る」には買う人の心理を理解しておかなければなりませんし、「買う」には商品に対する好みと価値に関する研究も必要になってきます。現代のように価値が多様化してくると、安ければ買うだろうといった価格の問題の他に、心で感じる価値によって支出を決めることだってあります。心理的価値にもとづく消費行動を研究していく分野です。

第3は、「健康と人」の分野です。OA機器を使いこなすことは、今やビジネスマンの常識といわれますが、OA機器がビジネスマンの心と体にとって大きな脅威となりつつあります。このテクノストレスの現象は、ミドル・エイジにはテクノ不安症を、ヤング・エイジにはテクノ依存症をひきおこすといわれています。この他にも、刻々と変化していくビジネスの世界は、多くのビジネスマンに「燃えつき症候群」「休日神経症」をひきおこしていることも事実です。心と体の病を治療することも重要なテーマですが、ストレスに打ち克つパワーをいかに育てるかというテーマも、これからより重大な問題になってきます。メンタルヘルスを中心としたストレス・マネジメントの研究が、健康と人に関する分野です。

この3つの分野はそれぞれからみあう内容であり、これらを総合して「産業心理学」と呼んでいます。これまでの産業心理学は、どちらかといえば心理学研究の理論の応用編といった色彩が濃かったのですが、これからの産業心理学は、社会科学系の学問や自然科学系の学問と協同しながら、独自の研究を開拓していかなければならぬ新しい分野といえます。

学生よりひとこと

- 「産業」と「心理学」という2つの全く違う分野を扱うのが、後藤先生の産業心理学です。経営を行うリーダーには何が必要なのか。人のやる気が仕事にどう影響するのか等働く側から見た経営の仕組みを学びます。また、授業中に、よく3~6人ぐらいのグループでの心理結果をもとにした話し合いが楽しかったです。
- プリントを使った、心理学の授業が面白い。エジプトで遭難した時に自分ならどうしたいのかというテーマの講義が印象に残っています。
- 先生は人格の面で学生に好かれるタイプだと思う。実際授業内で人間の心についてやっているから、大人物になれるのだと思う。先生の人生観も授業に反映されているので、聞いて面白。

国際交流

カナダ・アルバータ州立 レスブリッジ大学との交流

カナダ・アルバータ州立レスブリッジ大学との学生・教員の交流は、昭和61年から始められ、年々充実した交流が続いています。この事業は、両大学間の協議に基づき、対等な協力によって教育研究の国際化を促進し、相互の国際理解を深めるとともに、日加両国の親善をはかり、今後の産業経済・学術文化の場で活躍する人材を育成することを主な目的としています。学生の交流は隔年での交流となり、レスブリッジ大学の交換学生は5月から6月にかけて1ヶ月間、日本語・日本語学を研修。本学の交換学生は8月に1ヶ月間、レスブリッジ大学で英語・カナダ学を研修しています。

自分の目で見て感じることの大切さ

私は昨年夏「北海学園・レスブリッジ大学学生交換プログラム」に参加し、カナダに1ヶ月間滞在しました。

毎日大学へ通い講義を受けたのですが、そこで出会った同年代の学生から受けた刺激は大きく、とても新鮮でした。彼らの将来に対する明確なビジョンと、学ぶことへの真摯な姿勢に触れたことは、流されがちな私自身の生活を見つめ直し、向上心を持つ良い契機となりました。

そして、カナダでの日々で痛感したのは、「自分の目で見て感じる」ことの大切さです。壮大で厳しい自然も先住民の文化についても日本を出発する前から備っていた知識でした。しかし、それらを実際に目の当たりにすると、映像や文章からでは感じ得なかった圧倒的な存在感に声を失うことが多々ありました。その場所へ行き、体感して始めて知識を経験として自分の中に取り込めた気がします。

カナダで過ごしたのは本当に短い期間でしたが、1年前に体験した発見と驚き、出会いやもどかしさ、喜び等全ての事が、今、私の中で大きな広がりを見せています。それを大切にしながら、より多くの事を吸収し、何事にも貪欲に取り組みたいと考えています。

石垣 有梨
経済学部 経済学科3年
(岩見沢東高校卒業)



外国人留学生制度

日本への留学を希望する外国人留学生は年々増加しています。本学でも、全学部で外国人留学生を募集し、留学生を積極的に受け入れています。生まれ育った国の異なる者同士が同じ場所で共に学ぶことで、互いの文化を知り、互いを尊重しあうことは、極めて意義深いことと言えるでしょう。

また、奨学金制度や授業料の減額などの経済的な支援、宿舍の支援、学生部主催の交流パーティーなどを通じて、留学生が実り多い大学生活を送れるようなバックアップもしています。

日本の若者よ、共に頑張ろう

日本が世界でも有数の経済大国だというのは誰でも認めることである。それは日本人の勤勉さの結果だと思う。したがって世界の多くの人々が日本に追い付くために熱心に働いているし、日本に来て日本の経済を勉強している。

私もその中の一人で、自分の力で韓国の経済を再生しようという単純な考えと、日本のことをすべて学んでいこうという広大な目的で日本に来た。

しかし日本に来て直接見た若者の姿は、今まで聞いていた日本人とはちょっと違った。いわゆる『働きばち』の姿ではなくて、きたない仕事、苦勞しなければならない仕事から逃げる若者の姿だった。自分がアルバイトをした店の若者だけかと思ったが、他の店の若者も同じだし、いろいろな国の人に聞いてもたいていは同じ印象だった。

若者は近い将来、日本の主役になる人たちだ。その若者たちが努力しないと、日本の未来は見なくても分かる。もちろん、一人二人の若者が働かなくても日本の経済がすぐ崩れるとは思わない。また、ほとんどの若者は一生懸命、働いていると思う。だが、真面目に働かない若者が広がっているのは事実だ。

日本の若者よ、一緒に頑張ろう。私たちは日本の経済に追い付けるように。日本は追い付かれないように。

成 勲
経済学部 経営学科1年
(韓国仁川市出身)

情報教育

デジタル情報化社会といわれる現代は、パソコン、インターネットが当たり前に使えなければならない時代です。経済学部では、1年次から4年次までの間に様々な情報関連科目を配置することで、皆さんのこれからを支援します。



経済学部では、1年次に情報管理、2年次に情報処理論、3年次にプログラミングI、4年次にプログラミングIIと、1年次から4年次までの各学年に情報関連科目を配置して、情報教育に力を入れています。1年次の情報管理では、コンピュータ実習室において実際にパソコンを操作して、文字入力の練習、ワープロソフトによる文書処理、インターネットを使つての電子メールの送受信やホームページ検索・閲覧などを行い、本学のコンピュータシステムにいち早く慣れ、コンピュータを文房具感覚で当たりまえに授業やゼミなどに活用できるようにしています。2年次の情報処理論では、半期でコンピュータの基本原理解説についての講義を行うとともに、半期で実習室において表計算ソフトを使いながら、経済や経営関係のデータ処理・分析の基本を修得させています。2年までで、コンピュータの基本的な使い方と基本原理解説についての知識を得て、3年次以降のより専門的なコンピュータ教育へと移るのです。

コンピュータ実習室は、最新鋭のパソコンが置いてある授業用の部屋が3つと、自由実習室2室で構成されています。実習では40人以内の少人数教育を行い、常時インターネットに繋がっている環境で、自由に全世界のホームページを見たり、メールの送受信ができます。

私のゼミでも授業は全て実習室で行っています。ゼミでは、プレゼンテーションソフトを使った発表をさせて自己表現力を向上させたり、自分のホームページを作成し公開して情報発信能力を養ったり、経済・経営関連の具体的な問題を表計算ソフトによって分析することで問題解決能力を身につけたり、データベースソフトの活用や言語を使ったプログラム作成能力の育成なども行って、文科系といえども多様で基本的な情報処理技術を修得させ、情報化社会を生き抜けるよう教育を行っています。

福永 厚
情報処理論担当



ホームページアドレス
<http://www.econ.hokkai-s-u.ac.jp/>



Windows95が出てから、大学の情報処理教育が大きく変わりました。10年前まではコンピュータ教育と言えば、プログラミング教育だったのです。当時は、受講生はそう多くはなかったのです。それが、今では、ワープロ、表計算、インターネットが三種の神器になって、多数の学生が受講しています。「就職前に、パソコンぐらいできなくては」と思いこんでいる学生が多いです。理由がこれだけとは言えませんが、コンピュータ関係の授業は人気のある科目の1つです。

こうしたコンピュータリテラシー教育とは違って、もっと1歩踏み込んだ教育が必要だと私は考えています。例えば、ワープロの操作はできても、文書を書けない学生はいっぱいいます。でも、これって変だと思いませんか？ 文書を書くためにワープロを使うのに、文書が書けないとは。しかし、よく考えると変ではないのです。ボールペンが使えるからと言っても誰でもが文書を書けるとは限らないのです。人の心を打つ文を創作するということは、道具ではないからです。操作を覚えてからが、本番なのです。今のコンピュータ教育が、本番の手前で終わっていることを残念に感じています。

私は、3年生の情報処理科目を担当しています。この授業で、表計算Excelでプログラミングができるようになることを目標にしています。パソコンが使えるだけではなくて、卒業後の職場で自分が使うシステムを作れることを目指した教育を考えているからです。専門家でなくてもできることは自分たちで作ろうという積極派の育成を目指しています。経済学部では、システムに関する科目が不足していますので、どこまで教育できるか難しいのですが、努力中です。

2年のゼミでは、ホームページ作りです。北海学園大学のホームページを見てください。3、4年ゼミでは、WWWサーバーと関連したホームページ開発の勉強をしています。また組立パソコンを作ったりしています。自分で部品を買って手作りしたパソコンが完成したときは、とてもいい気分ようです。1人では作れないから、みんなで応援しています。

杉本 英二
経営統計学・プログラミングI担当

平成12年度 経済学部入試概要

連絡先：〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号（入試部入試課）
TEL (011) 841-1161代/FAX (011) 824-3141
テレフォンサービス (011) 841-0988
窓口取扱時間：月～金曜日 9:00～16:00 土曜日 9:00～12:40
（但し、12:40～13:40の間および日曜・祝祭日を除く）

一般入学試験

	学科	募集人員	出願期間	試験日	入学試験科目	合格発表	試験地
1部(昼間部)	経済学科	注178名	1月11日(火)～1月22日(土) 締切日消印有効	2月10日(木)	外国語	2月23日(水)	札幌 東京 青森 仙台
	経営学科	注152名		2月10日(木)	国語・選択A		
2部(夜間部)	経済学科	40名		2月12日(土)	国語		
	経営学科	40名		2月12日(土)	選択B		

選択Ⅱ/日本史B、世界史B、地理B、政治・経済、数学（数学Ⅰ、数学A）、簿記会計の6科目から1科目を出願時選択
選択Ⅲ/日本史B、世界史B、地理B、政治・経済、数学（数学Ⅰ、数学A）、簿記会計に英語（英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング、ライティング）を加えた7科目から1科目を出願時選択
※注については、標記の通りの募集人員の予定で、現在文部省へ申請中であります。

[公募制] 推薦入学試験 経済学部1部

	学科	募集人員	出願期間	試験日	選抜方法	合格発表	試験地
1部(昼間部)	経済学科	50名	11月9日(火)~11月19日(金)必着	11月28日(日)	書類審査 作文・小論文	12月9日(木)	札幌(豊平校舎)
	経営学科	50名					

[公募制] 推薦入学試験 経済学部2部

	学科	募集人員	出願期間	試験日	選抜方法	合格発表	試験地
2部(夜間部)	経済学科	40名	11月9日(火)～11月19日(金)必着	11月28日(日)	書類審査 小論文	12月9日(木)	札幌(豊平校舎)
	経営学科	40名					

[指定校制] 推薦入学試験 経済学部1部 経営学科

	学科	募集人員	出願期間	試験日	選抜方法	合格発表	試験地
1部(昼間部)	経営学科	26名	11月9日(火)～11月19日(金)必着	11月28日(日)	書類審査・面接	12月9日(木)	札幌(豊平校舎)

海外帰国生徒特別入学試験 経済学部1部

	学科	募集人員	出願期間	試験日	選抜方法	合格発表	試験地
1部(昼間部)	経済学科 経営学科	若干名	1月11日(火)～1月20日(木)必着	2月2日(水)	日本語作文 面接	2月4日(金)	札幌(豊平校舎)

外国人留学生特別入学試験 経済学部 1 部

	学科	募集人員	出願期間	試験日	選抜方法	合格発表	試験地
1部(昼間部)	経済学科	若干名	1月11日(火)～1月20日(木) 窓口持参	2月2日(水)	日本語作文 面接	2月4日(金)	札幌(豊平校舎)
	経営学科						

出願資格・要件等は平成12年度入学試験募集要項でご確認ください。また経済学部2部では、社会人特別入学試験も行っています。

推薦入試 Q & A

平成12年度入学試験募集要項と合わせてご覧ください。

本学経済学部では指定校、公募合わせて3通りの推薦制度を設けていますが、いずれも高等学校に対して推薦を依頼しているものです。出願を希望する際には高校の先生と相談してください。

1部公募推薦・2部公募推薦共通事項

Q 募集要項の趣旨の欄に北海道の地域社会の活性化に資する人材の育成とありましたが、特別な条件が必要でしょうか。

A 北海道の地域社会とありますが、そのことで出願資格に影響することはありません。道外の高校からも受験可能です。

○公募推薦の専願制とはどのような意味ですか。

A 専願とは、合格した場合は、必ず入学して欲しいという意味です。

Q 課外活動は出願の必須条件になるのですか。

A 出願の必須条件ではありません。しかし、出願時に提出される調査書に高校における課外活動が記載されている場合には、それが評価の対象になることがあります。具体的に課外活動としては、生徒会活動や体育、文化・文芸・技術活動、ボランティア活動、資格取得などがあります。

1部公募推薦試験について

Q 「全体の評定平均値」についてはとくに条件を設けないとありますが、何点でもいいのですか。

A 出願に際しては評定平均値何点以上という制限はありません。しかし、選抜に際して評定平均値を200満点中、75点満点（評定平均値を15倍したもの）で評価しますので、評定平均値が高い方が有利です。

Q 選抜方法に作文と小論文の2つがありますが、その違いは何でしょうか。

A 作文では、自分自身に関することを、800字程度で書いてもらいます。小論文は、最近の社会現象に関する資料をもとに、複数の問いに対して、記述させたり論述させたりします。

2部公募推薦試験について

Q 他学科への第2志望はできますか。

A できます。ただ、第1志望以外の学科への入学を希望しない人は、第2志望は書く必要はありません。

Q 「全体の評価平均値」については特に条件を設けないとありますが、何点でも良いのですか。

A 何点でも応募してかまいません。ただし評定平均値の合否への影響は全くないわけではありません。書類選考の段階で考慮される場合があります。

Q 高校をすでに卒業していても出願資格があると聞きましたが。

A 出願時に高校を卒業して2年以内であれば、出願することができます。

合格者体験記

私大受験をする人は、受験科目が少ないので、その中で1つでも得意な科目があると、受験に不利になるので得意科目を補うことが大切です。

僕の場合、英語が苦手だったので、受験前は、英語の勉強に一番力を入れました。また、過去問も早めに手をつけることをおすすめます。過去問をやって自分のその時の点数を出して、自分がその大学に合格するために、何が足りないのかを知ってください。大学は楽しいところです。みなさん合格に向けて頑張ってください。(土別高校出身・男)

例えばこの大学の受験を考えている人とかどこを受験するにしてもそうだけど、私立受験の場合はとくに英語の比重が高いので、得点源というか、絶対的な自信につなげることが不可欠だと思います。高校時代に英検2級とか漢字検定2級、できればそれ以上取れると、かなりの強みになると思います。とにかく後悔だけはいないで、目的意識を明確にし、行きたい大学へ見学に行ってみたりするのも、いいのではと思います。

(帯広柏葉高校出身・男)

私は高校時代理系のクラスに所属しており、そのまま電気関係の学校に進学しました。しかし自分の得意分野と本当にしたかった分野が違うものなのではないかと疑問をもち、悩みを抱えたまま退学。しかし迷いながらもわずかながらですが、少しずつ自分の気持ちを整理し、今も多少の疑問は正直残ってはいますが、自分で決断するということに真実を求めこの大学に進学することになりました。

(札幌新川高校出身・男)

受験してあらゆるプレッシャーをあびて5kgやせた、と言うより、やつれました。しかし入学してから2kg戻しました。相当遅くから勉強しても可能だと自信が確信に変わりました。
(札幌丘珠高校出身・男)

私の受験生活は毎日が戦争だった。少し特殊な高校へ行っていた私には、普通受験科目の学習単位が不足しており、それを補うため、予備校に通っていたからだ。時には夜8時半まで、予備校で授業を受けていることもあった。実際試験を受けてみると、こんなものかと思ったが、それは、それまでの勉強の賜物だったのかも知れない。

(札幌国際情報高校出身・女)

私の高校では、1年次の時から受験対応だったので、英単や漢字などをチェックしたり、普段および春夏冬の長期休暇の講習には全て参加して日頃から予習復習を中心に行っていました。3年次では、国立との併願だったので、センター試験の勉強を中心に、赤本に手を付けたのは、センター試験終了後からで、他の人に比べ、すこし遅かったと思います。しかし、本学の入試問題は基本的な所が出題されるので、問題量を多くこなすことが、一番の対策だと思っています。

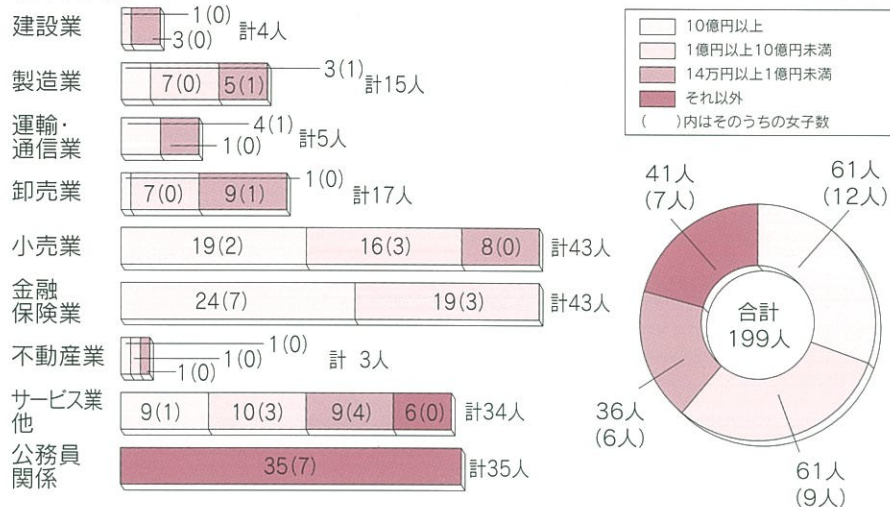
(札幌手稲高校出身・女)

就職

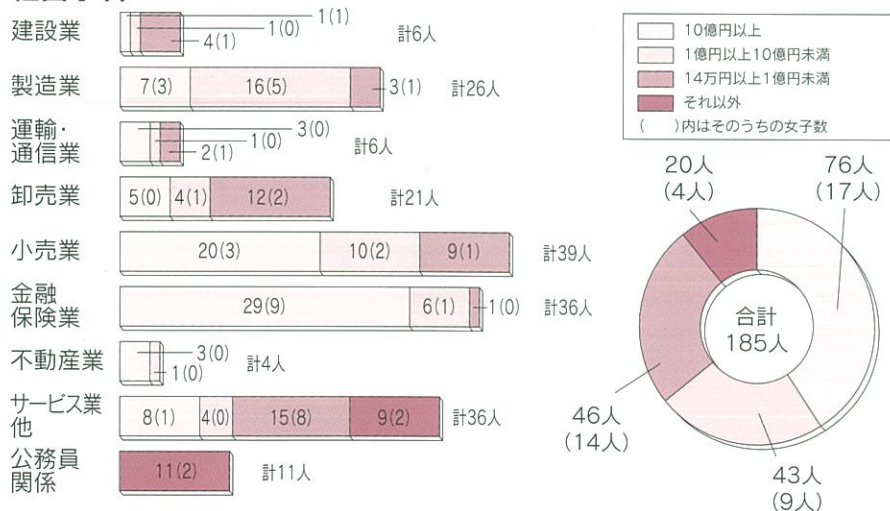
データは平成11年6月14日現在のものです。

'99卒業生業種別就職状況

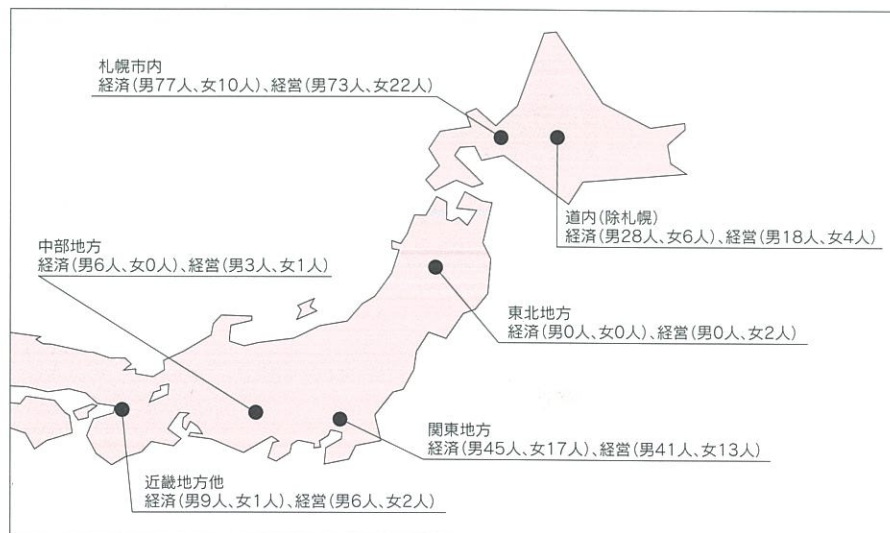
経済学科



経営学科



本社所在地別就職状況



'99卒業生公務員登録状況

経済／国家公務員Ⅱ種(6人)・国家公務員Ⅲ種(4人)・国税専門官(1人)・自衛隊曹候補生(1人)・北海道職員中級職(4人)・神奈川県警察(1人)・北海道警察官(6人)・札幌市役所(1人)・その他の市役所(5人)・町村役場(5人)・その他(1人)・合計(35人)・平成9年度登録者数(52人)・平成8年度登録者数(48人)

経営／国家公務員Ⅲ種(2人)・自衛隊幹部候補生(1人)・北海道警察官(3人)・札幌市役所(2人)・その他の市役所(1人)・町村役場(1人)・その他(1人)・合計(11人)・平成9年度登録者数(26人)・平成8年度登録者数(20人)

※その他は在学生(1～3年)の登録者数

公務員試験講座

公務員をめざして勉強を始める初学者から、主要な科目の基礎的知識を修得してもらえる講座です。札幌市内の4大公務員予備校の協力により、全国的にも例を見ない2年生からの学生を対象とした本格的講座です。各科目ごとの受験対策はもとより、合格のための合理的な勉強方法等も、4大公務員予備校から4通りのノウハウを学べます。市内他大学では実施していなかった初の試みです。

協力校：大原簿記学校・東京アカデミー・東京リーガルマインド・早稲田セミナー

教員免許・図書館司書 学芸員・社会教育主事 認定心理士

経済学部では、中学校・高校の教員をめざす教職課程が設けられ、中学校は「社会」の、高校は「地理歴史」・「公民」・「商業」の教員免許が取得できます。経済学部からの過去3年間の教職免許取得数は、延べ169件、教職登録者数は31名です。

また、図書館の司書の資格がとれる図書館学課程、博物館職員になるための学芸員課程、社会教育主事となるための社会教育主事課程も設けられ、総合大学のメリットを生かした各種資格がとれるシステムになっています。

さらに、2部では、今年度から認定心理士の資格をとるコースも設置されています。

グローバルな視野を持つために

私が経済学部を選んだ理由は、幼い頃からグローバルな視野を持ちたいという思いがあったからです。世界の国々を知り、他の国々と日本との関係を理解する上で経済活動は重要なポイントとなります。

大学時代は国際交流に力を入れました。実際に海外へ行く機会もあり多くのことを学びました。

大学の交換留学生として訪れたカナダでは世界的に見ればアジア=中国を指すということを強く感じました。また、カナダで多くの日系人に出会い、彼らが日本文化を大切にしていることを知りました。

また、ゼミ旅行で訪れたインド・タイ・ベトナムでは日本企業の進出度に驚き、それと同時に日本は物質的に豊かであるということに改めて気づかされました。そして、アジアにおける中国の影響の大きさを再認識しました。

この2回の旅行によって、日本という国を客観的に見ることができましたし、自分は日本人であることを強く認識しました。

現在、私は大学職員として大学の事務に携わっています。いずれ大学の国際交流事業に関わった仕事に就くことができたいと思っています。

そして、グローバルな視野を持つためにも日本という国を様々な地域から見つめていきたいと思っています。

対馬 樹里

経済学部1部経済学科・平成11年卒業
(札幌北高校卒)
北海道大学学務部教務課勤務

一期一会

「一期一会」という言葉があります。これは「自分の一生に一度かもしれない出会いというものを大切にしろ」という意味ですが、私にもそう呼べる出会いがありました。それは経済学部教授・後藤啓一先生との出会いです。

先生のゼミは産業心理学といって、簡単に言えば組織の中での人間関係を研究するゼミでした。当時私はこの後藤ゼミにどうしても入りたく、ゼミ希望者の面接が始まる1ヶ月も前に後藤教授の門を叩き自分を入れてくれるよう直訴したのです。本に囲まれた研究室の中で、先生は私にいくつかの質問をし、私はそれに対し緊張のあまり唇を震わせながら答

えていたのを記憶しています。

以前こんなことがありました。研究のノウハウについて悩んでいた私に先生はこう言いました。「星野君、机上の学問からは何も生まれない。君の行動力と積極性を活かし、外へ出て自分の目や肌で感じたものを大切にしろ。」この言葉は今でも私の脳裡に焼きつき、放送人として好奇心をもって人とふれあう自分の基本姿勢となっています。

現在、大学のレジャーランド化が危惧されています。大学をステータスやファッションの一部として考えている人が増えているからです。しかし、大学生活というその比較的自由的な時間をどう使うかは本人次第です。その中で私は自由な校風と学問に対する真摯な姿勢、そして多くの心地よい出会いを与えてくれたこの北海学園大学に感謝しています。

星野 輝一

経済学部1部経営学科・平成11年卒業
(札幌藻岩高校卒)
札幌テレビ放送株式会社(STV)報道制作部勤務

未来の北海道のために出来ること

私が卒業後の進路のことを本格的に意識し始めた大学3年の後半は、拓銀の破綻、相次ぐ道内企業の倒産、官依存的な体質の崩壊など北海道経済が過去に例のない深刻な危機に直面した時期でした。こうした状況を目の当たりにしながら、自分の生まれ育った北海道の経済活性化を民間の側から支援していけるような仕事をしていきたいという考えが自然と頭に浮かんでいました。現在の銀行への就職はそうした希望を実現するための選択肢のひとつであったわけです。

現在は支店の内勤で、銀行業務の一連の流れについて勉強の毎日です。学生時代に外から見ていただけでは想像できなかった仕事の厳しさに戸惑いつつも、一方では、一つひとつ仕事を覚えていくことに充実感も感じはじめています。将来的には、これまで道内で十分根付かなかった第2次産業の育成、あるいはベンチャー・ビジネスの支援・育成などにも関わっていけたらと思っています。

大学の4年間は自由に時間を生かせる場であり、自分というものを見つけていく場であったように思います。そうした中でこれから4年間を過ごす人には、月並みですけれども、自分はこれだけはやっとならばという没頭できるものを見

つけて欲しい。そのことが就職活動でも、社会に出てからも自分に大きな自信を与えてくれるように思います。

村谷 健一郎

経済学部1部経営学科・平成11年卒業
(釧路江南高校卒)
株式会社北洋銀行 平岸支店勤務

何ができるか、を追い求め

私は、現在養護学校の教員をしています。こうなったきっかけは、大学時代の経験です。アルバイトで家庭教師をしていた時、肢体不自由児と出会い、そのお手伝いをしたことが、最初のきっかけでした。私は、こうした現実を前に、「果たして自分に何ができるだろう」と考えはじめ、大学の講義の合間に養護学校を訪れたり、その学校の授業についてを見学したり、また、ボランティアなども経験しながら、養護教員をめざすことになりました。

正式に教員採用されたのは今年度からですが、着任した学校で最近設置された高等部を担当し、グループ授業に取り組んだり、個々の生徒に見合った授業を創りあげ、そのカリキュラムを考案したり、など、忙しいけれども充実した毎日です。

私の現在の職業を考えると、一見、経済学部とは関係なく、畑違いに見えます。しかし、なによりも大学時代にいろいろな出会いを経験し、またそれを生かしながら、自分の進路を追求したことが、今の仕事に繋がった、と思います。ふりかえてみると、経済学部の講義やゼミで、社会の流れやそのしくみなど、自分からでは知ろうとしない世界と出会っていたことは、現在の仕事をする上でも意味があった、と思います。また、これは、どんな仕事に就く場合にも、社会人として求められることだと思います。今でも、大学近くにたち寄った際、当時の好きな講義に出ていた楽しかった時期を思い出します。

佐藤 英理子

経済学部1部経済学科・平成10年卒業
(札幌手稲高校卒)
平取養護学校勤務



大学院

学年が卒業に近づくにつれ、経済学についての知識が豊かになり、色々な疑問が解かれていきます。一つの疑問が解かれると、また次の疑問が湧き、新たな研究へ。この繰り返しは、さながら難しいパズルを解くことに似ています。この“経済学”というゲームをさらに続けたい学生のために、大学院修士課程や博士課程進学という道があります。毎日の研究が疑問を解くプロセス。遠く長い道のりの中に、充実感があります。

経済学研究科(経済政策専攻)修士・博士(後期)課程の概要

経済学研究科は、1970年北海道の私大で最初の大学院として開設されました。

狭義の経済政策のみならず、経済理論、歴史、統計などの経済分野、さらには経営学、会計学、商学、情報システムなどの経営分野の多数の教授スタッフを擁しています。1995年には経済政策専攻の修士課程に引き続く博士課程も増設されています。

本研究科は、開設以来、大学教授をはじめ有為な人材を教育・行政・産業などの各界に送るとともに、近年留学生の受け入れ、社会人の門戸開放によって、社会的にも高い評価を受けています。特に、全期間夜間履修によって修了可能な「教育方法の特例」を実施しており、地下鉄の交通の便利さともあいまって、社会人の入学が非常に増加しています。これは、大学などにおける自立的な研究者のみならず、地域社会の専門分野において必要な能力と豊かな学識を有する人材を育成することによって、現代社会の「高度専門職業人」養成の期待に込めているからに他ならないといえましょう。また、2000年4月より、経営学研究科を設置するべく、現在申請中です。



留学生／大学院経済学研究科修士課程一年 李 中華



私は大連外国語大学を卒業後、遼寧省農政部国際課に就職しました。現在、中国では経済発展に寄与すべく農業部門において、農村経済構造の調整、輸出型農業の発展、農協組織の設立、農民教育の充実などの課題を取り組んでいます。

私は経済学全般、そして地域的特色をもった農業問題を解決するため、農業経済学を学習しようと決心しました。具体的には中日農業経済比較研究を通じて、中国農業経済の発展と振興に微力を尽すつもりで来日し、北海学園大学大学院経済学研究科に入学しました。遼寧省と北海道は共に北方圏に位置し、自然条件や第一次産業において似た点が多く、特に北海道農業の発展過程は遼寧省農業にとって参考になる可能性が高いと考えた時に、北海学園大学に入学したことは正しい選択であったと考えています。

大学は交通が便利であり、図書館や開発研究所の利用も可能であり、施設、設備も充実していると感じています。とくに、研究室と研究費は院生の学習と研究生生活に多大な利点となっています。講義は院生本人の研究志向と応用能力を重視して進められ、活発な雰囲気が満ちています。また、研究科はアジア地域経済を重視し、中国との共同研究課題もあり、私の研究にとって、有意義だと考えています。

諺に「活到老、学到老（生きている限り、勉強する）」とあるように、大学院生活を大切にして、経済学の理論と現実の経済動向を分析する力と日本語能力を身に付けるよう頑張りたいと考えていますし、更に中国農業の進歩と中日経済交流の発展に貢献したいと決意しています。

経済学博士号取得／田代文幸

私が北海学園大学大学院に社会人として入学したのは、今から6年前の60歳の時でした。大学卒業後30数年間、サラリーマン生活を漫然と過ごし、研究らしいことをして来なかったため、修士課程入学当初は学習に大いに不安がありました。指導教授の大場四千男先生初め諸先生の熱心な指導と若い学生の皆さんとの交流で、ようやく修士課程を修了しました。修士論文のテーマは今日の電力業界の出発点となった「電気事業再編成」でした。修士論文は初めて書く論文として重要なのですが、原資料の収集や歴史分析が不十分で、諸先生のご指導にもかかわらず、きわめて未熟であったと反省しています。

博士課程に入って4ヶ月目で会社勤務もなくなり、十分な勉強時間ができました。1年生の終わりに博士論文のテーマを「満州電業株式会社の研究」と決めました。第2次世界大戦に至る近・現代史を学びたかったことと自分が電力会社で働いて得た経験を考えて、このテーマを選びました。この論文の作成にあたっては、指導教授の長岡新吉先生などの諸先生に、史料や参考文献とその所在、論文の書き方などについて随時教えて頂きました。また、私の拙い論文の原稿に何回も目を通し、懇篤な指導を賜ったことに深く感謝いたします。このほか、院生研究室で、院生の皆さんと語り合ったことや、在京の大学、研究所を訪問して史料の閲覧、複写をしたことなども、今では楽しい思い出です。

この3月幸いに博士号を授与されました。未だ研究不十分な点が多く、今後とも勉強を続けていくことが諸先生の学恩に報いる所以であると考えています。

econ. (エコノ) No.1 発行：北海学園大学経済学部 1999・秋

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1-40
HP: <http://www.econ.hokkai-s-u.ac.jp>

TEL.011-841-1161 FAX.011-824-7729
E-mail: admin-ec@econ.hokkai-s-u.ac.jp